

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】令和 2 年 10 月 15 日 (2020.10.15)

【公開番号】特開 2019-37501 (P2019-37501A)
 【公開日】平成 31 年 3 月 14 日 (2019.3.14)
 【年通号数】公開・登録公報 2019-010
 【出願番号】特願 2017-161841 (P2017-161841)
 【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 0

A 6 3 F 7/02 3 0 4 D

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 9 月 4 日 (2020.9.4)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遊技を実行可能な遊技機であって、
 移動動作が可能な複数の可動部材と、
 遊技者の動作を検出可能な検出手段と、
 前記検出手段により前記動作が検出されたことにもとづいて検出演出を実行可能な検出演出実行手段と、
 前記動作を促す促進演出を実行可能な促進演出実行手段と、
 促進演出が実行されることを示唆する示唆画像を特定期間において表示可能な示唆画像表示制御手段と、
 可動部材の移動動作を制御可能な可動制御手段とを備え、
 前記促進演出実行手段は、
 示唆画像の表示が終了することにもとづいて該示唆画像により示唆された促進演出を実行可能であり、
遊技者にとって有利な有利状態となる信頼度が異なる複数種類の促進演出を実行可能であり、
 前記可動制御手段は、示唆画像を遮蔽しない位置から、示唆画像の少なくとも一部を遮蔽する位置へ可動部材を移動させることが可能であり、
 前記特定期間において可動部材が示唆画像の少なくとも一部を遮蔽する回数が多いときの方が、該回数が少ないときよりも高い割合で遊技者にとって有利な結果が報知され、
前記示唆画像表示制御手段は、
前記有利状態となる信頼度が低い促進演出が実行されることを示唆する第 1 示唆画像と、
前記有利状態となる信頼度が高い促進演出が実行されることを示唆する第 2 示唆画像と
、を表示可能であり、
第 1 示唆画像の少なくとも一部を遮蔽する位置に可動部材が位置しているときに、該第 1 示唆画像を第 2 示唆画像に変化可能であり、
前記複数の可動部材のうちいずれの可動部材が示唆画像の少なくとも一部を遮蔽したか否かに応じて異なる割合で有利状態に制御される、
 ことを特徴とする遊技機。

【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１１

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００１１】

（手段Ａ）遊技を実行可能な遊技機であって、移動動作が可能な複数の可動部材と、遊技者の動作を検出可能な検出手段と、前記検出手段により前記動作が検出されたことにもとづいて検出演出を実行可能な検出演出実行手段と、前記動作を促す促進演出を実行可能な促進演出実行手段と、促進演出が実行されることを示唆する示唆画像を特定期間において表示可能な示唆画像表示制御手段と、可動部材の移動動作を制御可能な可動制御手段とを備え、前記促進演出実行手段は、示唆画像の表示が終了することにもとづいて該示唆画像により示唆された促進演出を実行可能であり、遊技者にとって有利な有利状態となる信頼度が異なる複数種類の促進演出を実行可能であり、前記可動制御手段は、示唆画像を遮蔽しない位置から、示唆画像の少なくとも一部を遮蔽する位置へ可動部材を移動させることが可能であり、前記特定期間において可動部材が示唆画像の少なくとも一部を遮蔽する回数が多いときの方が、該回数が少ないときよりも高い割合で遊技者にとって有利な結果が報知され、前記示唆画像表示制御手段は、前記有利状態となる信頼度が低い促進演出が実行されることを示唆する第１示唆画像と、前記有利状態となる信頼度が高い促進演出が実行されることを示唆する第２示唆画像と、を表示可能であり、第１示唆画像の少なくとも一部を遮蔽する位置に可動部材が位置しているときに、該第１示唆画像を第２示唆画像に変化可能であり、前記複数の可動部材のうちいずれの可動部材が示唆画像の少なくとも一部を遮蔽したか否かに応じて異なる割合で有利状態に制御される、ことを特徴とする。

（手段１）本発明による遊技機は、遊技を実行可能な遊技機であって、移動動作が可能な可動部材（例えば、可動役物５０）と、遊技者の動作（例えば、プッシュボタン１２０への押下操作、スティックコントローラ１２２への傾倒操作）を検出可能な検出手段（例えば、プッシュセンサ１２４、傾倒方向センサユニット１２３）と、検出手段により動作が検出されたことにもとづいて検出演出（例えば、可動役物５０を進出位置に進出させる演出）を実行可能な検出演出実行手段（例えば、演出制御用マイクロコンピュータ１００における、ステップＳ３２０８，Ｓ３２２８を実行する部分）と、動作を促す促進演出（例えば、プッシュボタン１２０への押下操作を促す第１促進演出、スティックコントローラ１２２への傾倒操作を促す第２促進演出）を実行可能な促進演出実行手段（例えば、演出制御用マイクロコンピュータ１００における、ステップＳ２６０７，Ｓ２６１３のいずれかを実行することにより第１促進演出または第２促進演出を設定してからステップＳ８００４を行い、ステップＳ８００６，Ｓ８１０５を実行する部分）と、促進演出が実行されることを示唆する示唆画像（例えば、第１促進演出が実行されることを示唆する第１示唆画像（ボタン画像：ボタン（大）、ボタン（小））、第２促進演出が実行されることを示唆する第２示唆画像（レバー画像：レバー（大）、レバー（小）））を特定期間（例えば、変動表示中）において表示可能な示唆画像表示制御手段（例えば、演出制御用マイクロコンピュータ１００における、ステップＳ２６０７，Ｓ２６１３のいずれかを実行することにより第１示唆画像または第２示唆画像を設定してからステップＳ８００４を行い、ステップＳ８００６，Ｓ８１０５を実行する部分）と、可動部材の移動動作を制御可能な可動制御手段（例えば、演出制御用マイクロコンピュータ１００における、ステップＳ２６２２で動作パターンを設定してからステップＳ８００４を行い、ステップＳ８００６，Ｓ８１０５を実行する部分）とを備え、促進演出実行手段は、示唆画像の表示が終了することにもとづいて該示唆画像により示唆された促進演出を実行可能であり（例えば、演出制御用マイクロコンピュータ１００は、第１示唆画像（ボタン画像）の表示が終了することにもとづいて第１促進演出を実行可能であるとともに、第２示唆画像（レバー画像）の表示が終了することにもとづいて第２促進演出を実行可能であり（図３４参照））、可動制御手段は、示唆画像を遮蔽しない位置（例えば、退避位置）から、示唆画像の少なくと

も一部を遮蔽する位置（例えば、進出位置）へ可動部材を移動させることが可能であり、特定期間において可動部材が示唆画像の少なくとも一部を遮蔽する回数が多いときの方が、該回数が少ないときよりも高い割合で遊技者にとって有利な結果が報知される（例えば、演出制御用マイクロコンピュータ１００は、図３１（Ｂ）、（Ｃ）に示す動作パターン選択抽選テーブルを用いて動作パターンを決定することにより、可動役物５０の動作回数が多い動作パターンが選択される場合の方が、該動作回数が少ない動作パターンが選択される場合よりも高い割合で大当り図柄を停止表示する）ことを特徴とする。そのような構成によれば、可動部材が示唆画像を遮蔽することにより遊技者に与えるストレスを軽減することができる。